

①西畦野の小童寺にある美女丸と幸寿丸、仲光の供養塔群②源氏まつりの懐古行列でも美女丸役と幸寿丸役が登場する（平成31年度撮影）③④春には桜、秋には紅葉が小童寺を彩る



多田神社の創設者である源満仲公の子

市内の小童寺にまつわる 美女丸の伝説

清和源氏発祥の地である川西。市内には清和源氏にまつわる逸話が数多く残されています。市北部の小童寺に並ぶ石塔群。今回は、そこに眠るとされる美女丸と幸寿丸の伝説を紹介します

語り継がれる武士の教え

西畦野にある小童寺には、美女丸と幸寿丸、藤原仲光の供養塔と伝えられている石塔群があります。美女丸は清和源氏の礎を築いた源満仲公の子で、後に比叡山延暦寺で出家して源賢と名乗りました。

美女丸伝説には、家来は主君に忠誠を誓い、子は親に孝行を尽くすという武士の教えが込められています。武士が登場する中世から武士道が完成する近世にかけて、教えを広めるため、仏教説話や謡曲、芝居の脚本などで語り継がれてきました。

武士がいなくなった現在でも、武士の生き方やそれに翻弄された4人の人生を伝える物語として、僧や語り手などから多くの参詣者に伝えられています。

美女丸伝説のあらすじ

厳しい武家社会で生まれた悲話

平安時代の頃、多田を開発した源満仲公に美女丸という男児がいました。美女丸は中山寺に預けられましたが、修行に身が入りません。これを知った満仲公は大いに怒り、家来の仲光に美女丸を処刑するよう命じました。

命令とはいえ、仲光は主君の子である美女丸を処刑できずにいました。仲光の子である幸寿丸は、苦悩する父を見て、年が近い自分が美女丸の身代わりになると申し出ます。

主君の子と我が子のどちらを処刑するか悩みぬいた仲光は、我が子を処刑しました。そして美女丸を密かに比叡山に送り、満仲公にはうその報告をしたのです。満仲公もさすがに我が子の顔を見ることはできず、うそだということには気が付きませんでした。

月日は流れ、多田に源賢という高僧が訪れました。実は源賢は、自分の代わりに幸寿丸が処刑されたことを知り、修行に励んだ美女丸だったのです。事実を聞いた満仲公は自らの行いを恥じ、出家しました。その後、源賢は幸寿丸を弔うため、小童寺を建立しました。

CHECK & QUIZ

次の空欄（○の中）を埋めてください。
 1：「三つの○」に注意 2：頑張る飲食○を応援

クイズ正解者の中から図書カード（1,000円分）を5人に差し上げます（正解者多数の場合は抽選。当選者のみに送付します）。応募方法：市ホームページ（右の2次元コードからアクセス可）から必要事項を送信するか、ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、興味のある記事と感想を書き、5月8日（金）（消印有効）までに〒666-8501・広報広聴課「クイズ」係へ。

※4月号の正解は（総）（救）で、95件の応募がありました。



3月末現在の人口



男……………74,388人（-152）
 女……………82,692人（±0）
 計……………157,080人（-152）
 世帯数…70,343世帯（+190）